

PRESS RELEASE

配信先：沖縄県政記者クラブ

令和4年4月14日
琉球大学

糖尿病治療薬による血液がん抑制効果の可能性 ～SGLT2 阻害剤が超難治性の血液悪性腫瘍の増殖を抑える～

九州・沖縄地方における発症率が高い成人T細胞白血病（Adult T cell lymphoma, ATL）は進行が非常に早く、未だ決定的治療法がない超難治性の血液がんです。琉球大学大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）の仲地佐和子博士（血液グループリーダー）、岡本士毅博士（研究グループリーダー）、益崎裕章教授らの研究チームは がん細胞がブドウ糖（グルコース）を貪欲に要求する現象に注目した新しいがん治療戦略概念、Metabolic Oncology を提唱し、糖尿病治療薬を活用する新しい ATL 治療法の可能性を見出しました。研究グループは腎臓の近位尿細管に局在するブドウ糖トランスポーターのひとつ、sodium glucose cotransporter 2（SGLT2）が急性増殖期の ATL 細胞にも多量に発現していることを発見しました。そこで、尿糖排泄を促進し血糖値を下げる糖尿病治療薬として汎用されている SGLT2 阻害剤を急性期の ATL 細胞に作用させると、がん細胞の細胞増殖周期が止まり、がん細胞の増殖が50%以上も抑制出来ることがわかりました。糖尿病治療薬を巧みに活用して、糖尿病とは直接の関係がないものの、進行の早い超悪性 ATL 細胞の増殖を遅らせるというユニークな治療法の樹立が期待できます。本研究成果は2022年3月31日に国際医学誌 Biomedicine and Pharmacotherapy（インパクトファクター：6.53点）にオンライン掲載されました。本件に関する取材について下記のように御案内申し上げますので宜しく御願い申し上げます。

記

日時：令和4年4月25日（月）14:00～15:00

場所：琉球大学医学部 ~~臨床研究棟1階 大学院セミナー室~~
基礎研究棟1階 機器センターセミナー室

【問い合わせ先】

琉球大学上原キャンパス事務部企画課 企画係

TEL：098-895-1541

E-mail：kkikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp